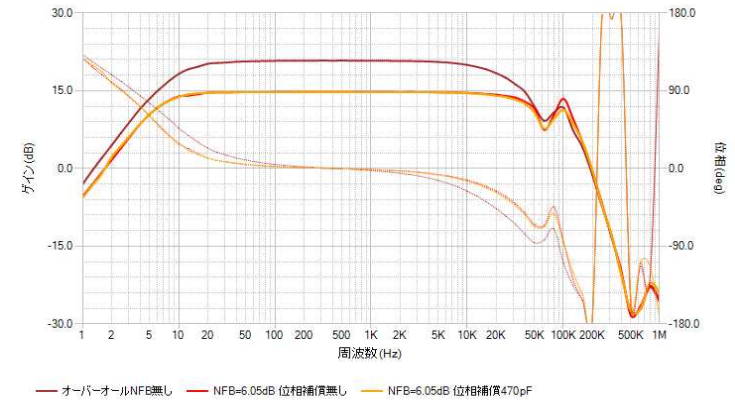


# 801A負荷中点接地シングルアンプ

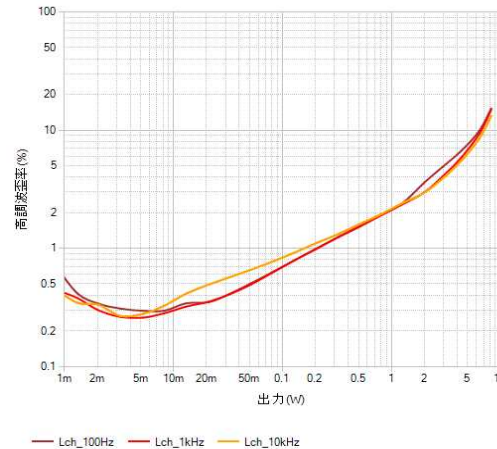


負荷の中点を接地するとプレートとカソードの両方から半分づつ出力を取り出すことになり、P- $\mu$ 分割位相反転回路と同様に50%のカソード帰還が掛かります。概して内部抵抗の高い送信管は出力インピーダンスが高くなりがちですが、深い局部帰還のおかげでオーバーオールNFBを掛けない状態でダンピングファクタが約3と、オーディオ三極管並みになりました。一方で、深い局部帰還のためか、OPT単体では素直な減衰を見せていた高域特性が暴れてしまったのが残念です。また、このアンプは出力管にバイアス回路を設けないゼロバイアスアンプで、801Aの動作としては低電圧、低負荷インピーダンスとなっています。

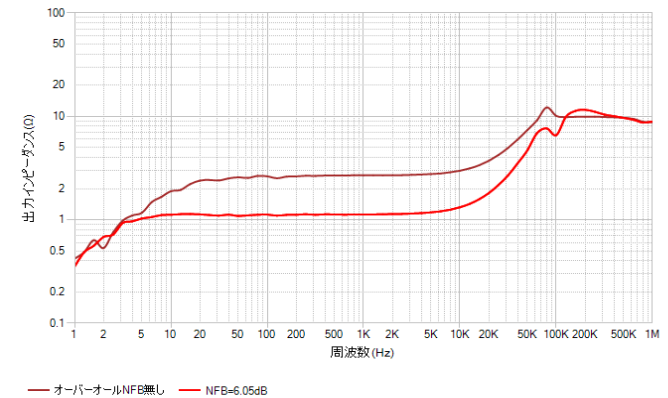
801A負荷中点接地シングルアンプ\*周波数特性 (Lch, 1V出力, 8 $\Omega$ 負荷)



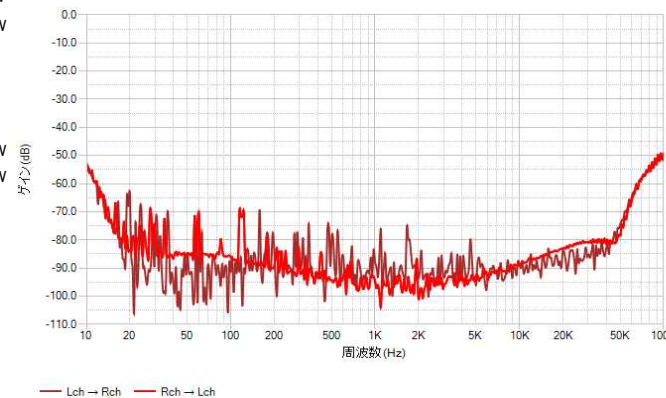
801A負荷中点接地シングルアンプ\*歪率特性 (Lch, 8 $\Omega$ 負荷)



801A負荷中点接地シングルアンプ\*出力インピーダンス特性 (Lch, 注入法による, 1Vrms)



801A負荷中点接地シングルアンプ\*クロストーク測定 (8 $\Omega$ 負荷, 1V出力)



## 残留雑音

	10~300kHz	IEC-A
Lch	316.4 $\mu$ V	116.3 $\mu$ V
Rch	229.8 $\mu$ V	88.55 $\mu$ V

## ダンピングファクター

	(8 $\Omega$ 負荷, 1kHz, 1Vrms)
Lch	7.12 (NFB無し 2.97)
Rch	7.25 (同上 3.03)

2018. 3. 18  
 前川有人(滋賀県米原市)

